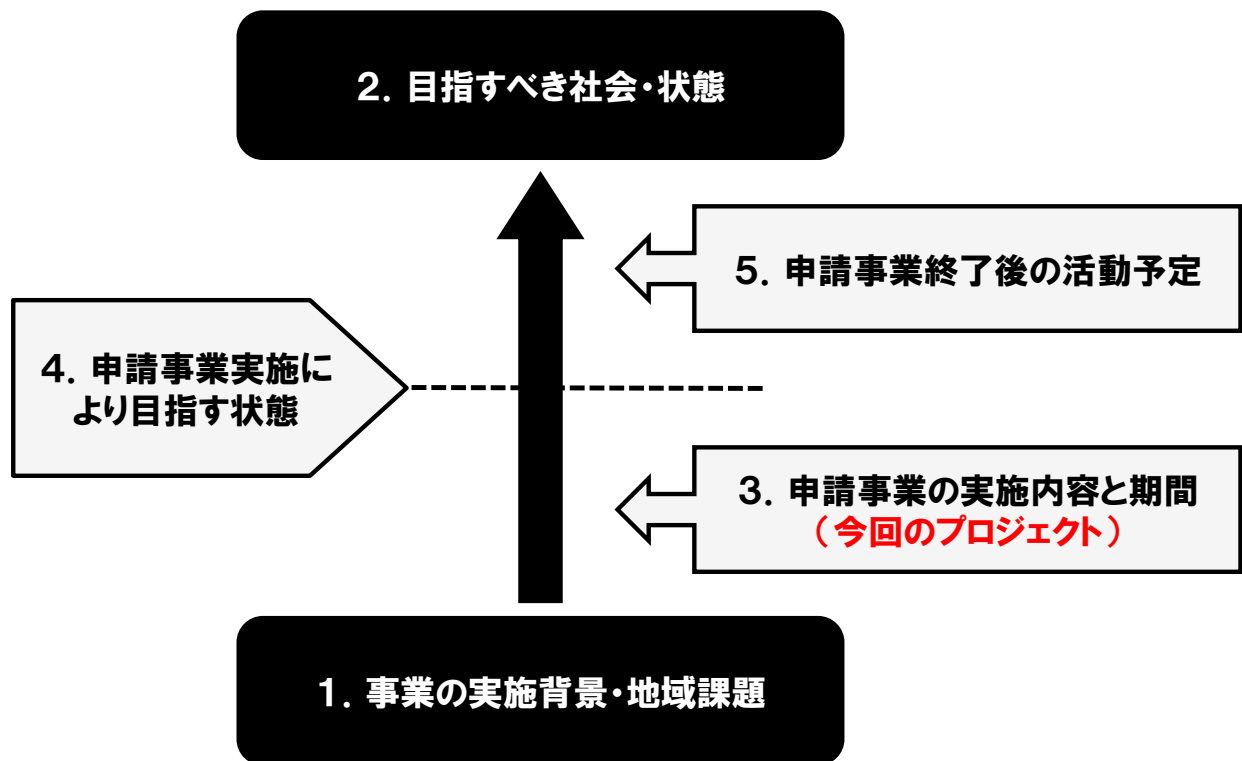


事業指定助成プログラム助成事業申請書を書く際のポイント

申請書の構成を図式化すると下図のようになります。

申請書を書く際は、下図の番号順に考えていくと、内容の整理がしやすくなります。

何の事業をするかの前に、1) どのような課題に取り組み、2) それをどのような状態にしたいのかを考え、3) その為にはどのような事業の実施が必要なのか、と順番に考えていくことが重要になります。これにより、取り組んでいる課題のことを知らない方々に対して、内容を分かり易く伝えることができ、その結果、寄付やその他の支援に繋がっていきます。



(事務局記入欄)

受付日	受付者	ヒアリング	備考
-----	-----	-------	----

公益財団法人みんなでつくる財団おかやま事業指定助成プログラム（第●期）

助成事業申請書

公益財団法人みんなでつくる財団おかやま 御中

申請日：201●年●月●日

基本項目

ふりがな	みんつくさんぶる	
団 体 名	みんつくサンプル	
代表者氏名 (役職)	氏名：石田篤史 役職：代表理事 ※任意団体等で団体印がない場合は、代表者の印鑑を押印してください。	代表者氏名 みん (役職)く
団体所在地住所	〒700-0807 岡山市北区南方2丁目13-1 きらめきプラザ2階 ゆうあいセンター内	
TEL	086-206-2195	
FAX	086-899-6329	
E-mail	info@mintuku.jp	
ホームページ URL	mintuku.jp	
担当者 氏名	皆手 造郎	
担当者 TEL	086-206-2195	
担当者 Email	minnadetukurou@mintuku.jp	

●実施事業名 及び 助成希望金額

実施事業名	地域をみんなで守ろう！ 「橋守」サポーター養成モデル事業
実施事業の概要 100～180文字程度で簡潔にご記入ください	普段の生活で使っている“15 m未満の小さな橋”は岡山県内だけで30,000橋もあると言われており、その多くで老朽化が進んでいます。しかし、行政だけではすべてを調査・点検することが難しい状況です。そこで、住民たちで身近なインフラを守ることができる仕組みを築き、地域の安心・安全を守るプロジェクトを実施します。
助成希望額	320,000 円

※実施事業名は、カタログ、HP等で公開されます

※助成希望額は、9. 実施予算（1）本事業の収支 収入の部「当プログラム助成金（助成希望額）」と一致させてください

●申請必須条件の確認

「CANPAN」での情報開示レベル★取得数	★（ 5 ）つ URL : http://fields.canpan.info/organization/detail/1113760944
おかやまシェア・ウェブへの登録状況	済 ・ 未 URL : http://okayama-share.jp/cgi/web/?c=np0-2&pk=44
事前相談 もしくは Share 会議参加	実施日・参加日 201●年●月●日

※おかやまシェア・ウェブの登録には CANPAN の★が3つ以上必要です。

1. 事業の実施背景・地域課題

解決を目指す課題の内容、課題の原因・背景をご記入ください。事例、数字をお用いて具体的に記入ください。
(記入欄に写真や図などの貼付可)

当事業において取り組む社会課題は、橋の老朽化（老朽化の状況が把握されていないこと）です。

毎朝の通勤・通学など日常生活の中で橋を通っている方は多いと思います。しかし、橋を利用するときに、橋の安全性について意識することはないと思います。高度経済成長期に何万という数の橋が建設されており、2010 年から 2025 年にかけて建設から 50 年以上迎える橋が急増します。橋はきちんとメンテナンスを行えば、長い間使用することができますが、メンテナンスが行えていないと崩落の危険性が出てきてしまいます。今、この橋の老朽化が社会問題となっていますが、あまり知られていないのが現状です。

岡山県などによると、県内で自治体が管理する道路橋は約 3 万 6 0 0 以上あり、20 年以内に県内の 50% の橋梁がコンクリート構造物の寿命といわれる築後 50 年を経過するとみられています。

約 3,500 ある 15 メートル以上の橋については、国の方針に従い各自治体が点検・補修などの長寿命化を進めています。平成 25 年度中に県内すべての自治体でメンテナンス計画が作られる見通しであり、すでに補修されたケースもあります。しかし、15 メートル未満の橋は「手を出せていない自治体が多い」（県道路建設課）と指摘されています。

何千、何万あると予測される 15 メートル未満の橋は、橋の数が多く、行政組織のメンテナンスだけでは、十分な調査・点検ができない状況です。私たちが今後も安心して橋を利用し続けるためには、私たち市民も参加していくことが大切だと考えています。



老朽化が進んでいる橋梁のイメージ

写真やグラフなどを用いるとより伝わりやすくなります

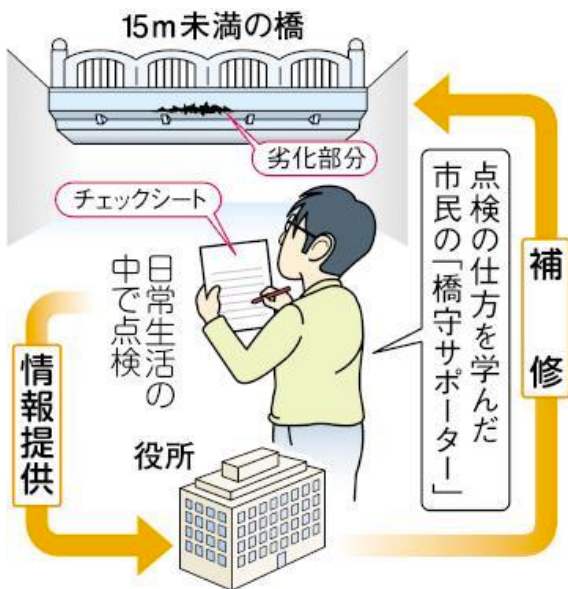
2. 目指すべき社会・状態

1の社会課題の解決に取り組み、どのような社会・状態を目指しているかご記入ください。

今回の事業期間内にとらわれず、これまでと今後も踏まえて地域課題の解決により何をめざすかご記入ください。

地域のインフラは住民が見守り、みんなで健全な状態に保つことで、持続可能な社会の構築を目指します。

数が多く自治体が出すことができない15メートル未満の橋を市民が散歩や買い物などのついでに点検し、異常を見つけた際は自治体に通報して補修を要請する「橋守サポーター」を育て、適切な補修につなげる仕組みづくりによって実現していきます。

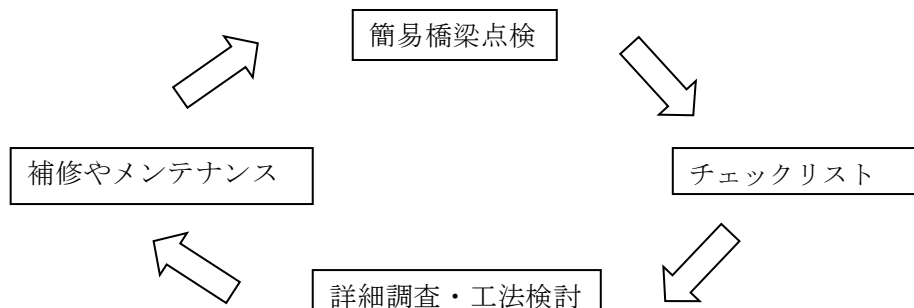


○橋は適切に補修管理すると100年でも持ちます。

○市民参加による地域の橋を見守る「橋守」サポーター制度は、自治体と住民が協働で道路ネットワークの安全性・信頼性に寄与します。

○みんなで橋を点検し、日常的な管理をすることで、全体を把握して予防的措置を講じることができます。それにより、修繕・架替えに係る事業費の大規模化及び高コストを回避し、ライフサイクルコストの削減を図ることができます。

○「地域でできることチェックリスト」を媒体に、住民が中心となり橋の欄干のペンキ塗りや草刈りなどで、地域の結束を図れます。



3. 申請事業の実施内容と期間

2を実現するために行う申請事業の実施内容を具体的にご記入ください。

事業実施期間内に行う具体的な内容とスケジュール、目標を書いてください。（記入欄に写真や図などの貼付可）

●事業実施期間：201●年●月●日 ～ 201●年●月●日

●実施内容

私たち市民がメンテナンス活動に参加しやすい環境をつくる事業を実施します。

まず、当法人による状況調査（橋の数、状態などの調査）を行い、その後、地域住民や学生などと橋梁点検体験会を実施します。

また、私たちにできることを分かりやすくするために、行政と地域住民によるワークショップを行い「市民向け簡易橋梁点検マニュアル」「地域のできることチェックリスト」を作成します。

この活動を「市民も参加して自分たちの生活環境を守っていくことができる環境」をつくる第一歩にしたいと考えています。

・「市民向け簡易橋梁点検マニュアル」・・・一般の人にも分かるように絵や写真を多用して、橋を見るポイントを整理します。

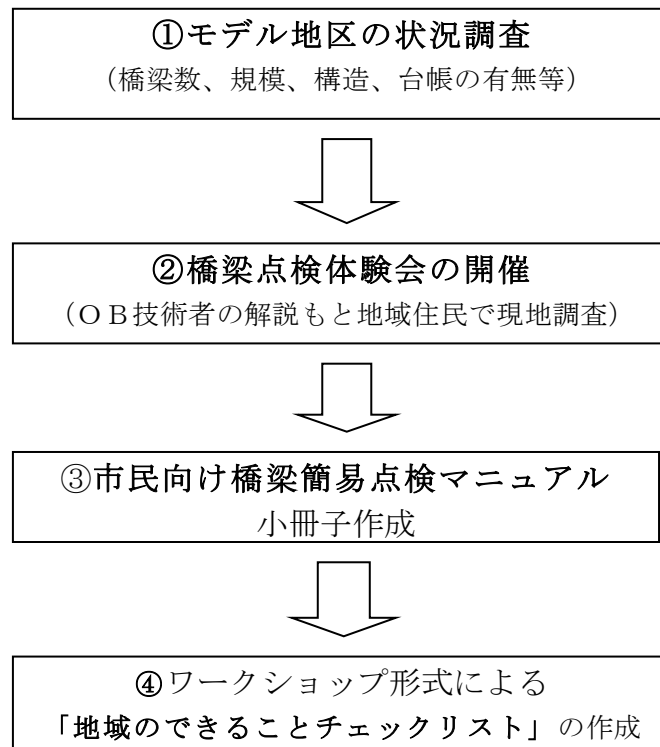
・行政と地域住民がワークショップを通じて「地域のできることチェックリスト」を作成して、自主的にできることや計画的に補修することで、安全・安心なインフラの整備に努めます。

「地域のできることチェックリスト」・・・日常のメンテナンスで必要なことを可視化して、自分たちで出来ることに気付くためのツールです。

【対象橋梁】

- ・市町村道のうち、日常的に点検の行われていない15m未満の橋梁
- ・対象エリアは●●。

■フロー図



①モデル地区の状況調査

- ・モデル地区を選定して、当法人が中心となり、その地区のインフラ状況の把握を行います。
〔橋梁数・延長・構造を調査（写真に撮り台帳を作成）、行政の台帳とすりあわせる。〕
- ・地域の高齢者や行政から橋の作成時期の聞き取りを行い、経過年数の把握を行います。

②橋梁点検体験会の開催

- ・当法人を中心に産学官でチームを作り、地域住民や学生などの希望者と共に、現地調査を行います。
（安全担当者を付けて安全管理を徹底します。）
- ・体験内容の振り返りワークショップを行い、わかりやすかった点、見にくかった点などを共有します。

③「市民向け簡易橋梁点検マニュアル」の作成

- ・体験会や書籍から簡易橋梁点検マニュアルを作成します。
- ・誰でも理解出来るように図を使い、簡潔に作成します。

④ワークショップによる「地域の出来ることチェックリスト」の作成

- ・橋梁体験会の内容を検討して、日常のメンテナンスに必要な項目の整理を行います。
- ・集落アドバイザーのサポートのもと、人材、機械、道具など地域の資源ヒヤリングを行います。
- ・「市民向け簡易橋梁点検マニュアル」と「地域で出来ることチェックリスト」を作成して、行政との話し合いの資料として活用してもらいます。

【スケジュール】

実施日程	実施内容	目標
●月	モデル地区の状況調査	
●月	橋梁点検体験会の開催及び「市民向け簡易橋梁点検マニュアル」の作成	
●月	「地域の出来ることチェックリスト」を使ったワークショップの開催	参加人数●●人
●月	簡易点検マニュアル及び出来ることチェックリスト完成	
●月	報告書の作成と報告会を開催	参加人数●●人

4. 申請事業実施により目指す状態

2を実現するために3を実施し、その結果、どのような状態（どこまでの状態）になることを目指しているかをご記入ください。

本事業を実施することにより、橋守りサポーターモデルを構築します。「市民向け簡易橋梁点検マニュアル」や「地域の出来ることチェックリスト」をまとめた小冊子を住民に配布するとともに、他市町村への啓発活動に活用し次のステップに繋がっていきます。

今回のモデル地域においては下記内容が想定されます。

- ①本事業によって、地元住民の方が対象エリア内にどのような橋があるのか、場所や規模を把握することができます。
- ②住民と一緒に事業を進めることで、住民が自主的に安全に点検する方法を学べます。
- ③簡易橋梁点検をすることで、現状の橋がどのような状態か？健全度を把握することができます。
- ④ワークショップで「地域の出来ることチェックリスト」を作成することで、行政と住民との連帯が図れます。
- ⑤対象エリア内の橋梁がどこにあって、危険な橋がどこにあるか説明できる情報を提供できます。



5. 申請事業終了後の活動予定

申請事業終了後にどのような活動を予定しているかご記入ください。4の状態から2を実現させるための活動予定をご記入ください。

○「市民と産官学による小規模橋梁長寿化検討委員会」を開催して、橋梁台帳の点検結果を基に予防保全計画を策定して、計画的に修繕補強を行います。

○岡山県内全域に「橋守」サポーター事業を普及・啓発します。

- ・初年度は、財政規模が小さく人材が不足している自治体を対象に、事業を行います。
- ・初年度の成果をもとに、「橋守」サポーター教育制度を確立して、県内の市町村に売り込みます。
- ・「市民向け簡易橋梁点検マニュアル」を小冊子化して、テキストとして販売します。

○橋梁以外のインフラのサポート事業も推進します。

- ・「道守」；市町村が管理する道路の陥没などを調べます。
- ・「斜面守」；裏山や道路に面した斜面を見守ります。
- ・「川守」；市町村を流れる河川の堤防の亀裂などの異変に気付く人を育てます。
- ・その他；トンネル、上下水道、ため池など見守りが必要なインフラはたくさんあります。

○地元業者で働く若手技術者の教育・育成を行います。

- ・将来的には、市町村のインフラは地元業者で働く若手技術者が点検から補修までトータル的に管理運営できるように、教育していきます。

6. これまでの寄付募集の取り組み

該当する選択肢に○を付けてください。

(実績などが無いことのみを理由として「不採択」とすることはありません。)

現状

全く取り組んでいない ・ ☐ 取り組んでいるが積極的ではない ☒ 積極的に取り組んでいる ☐
その他 ()

寄付募集に取り組んでいる期間

なし ☐ 1年以内 ☒ 3年以内 ☐ 3年超 ☐

寄付集め担当者

いない ☐ 兼任がいる ☒ 専任がいる ☐ その他 ()

寄付募集のためのツール（チラシやホームページなど）

☒ ない ☐ ある ☐ 新規作成中 ☐ リニューアル中 ☐ その他 ()

7. 寄付金獲得方針・プラン

当プログラムを使って寄付（助成金の元となる寄付金）を集める方法をご記入ください。

具体的な寄付獲得プラン（記入しきれない場合は、表を追加してください。）

寄付集め従事者数	3名
ターゲット（対象）	①プロジェクトに協賛いただける一般市民 ②建設に関連した企業、もしくは協賛していただける企業・関係行政機関や地元業者
方法（どのようにして） * 獲得目標額など	①説明会を開催して寄付への理解と協力をお願いします。 ②直接企業を訪問して、協賛いただけるよう営業します。 ③みんつく財団や集落アドバイザーのサポートを受け、地元説明をします。
その他	—

8. 寄付者や社会に対する事業報告（情報開示）方針・方法 * 1 頁以内でご記入ください。

* 申請団体として寄付者と社会に対して行う事業報告（成果・使途等）についてご記入ください。

（１）寄付者への事業報告（具体的に）*事業実施後 2 か月以内

該当するものを■にしてください。

■寄付者へ報告書を送付

□ニュースレターなどを送付

□メルマガ送信

■事業報告会実施

■現場見学会実施

□その他（ _____ ）

（２）社会への事業報告（具体的に）

該当するものを■にしてください。

■ホームページ

■ブログ

□ツイッター

■フェイスブックなどの SNS

■事業報告会実施

■現場見学会実施

□その他（ _____ ）

9. 実施予算

* 2 頁以内でご記入ください。

(1) 本事業の収支

※表をダブルクリックすると編集できます。

費目		金額 (円)
収入の部	当プログラム助成金 (助成希望額)	320,000
	●●補助金	100,000
収入合計		420,000

費目	算出根拠	金額 (円)
①当プログラム助成金 対象費目	印刷製本費	簡易点検マニュアル作成 @20円×20ページ×50部=20,000
		報告書作成 @1,000円×80部=80,000円
	雑費	ヘルメット @2,000円×10個
	●●費	●●●
	●●費	●●●
	小計	320,000
②その他費目	●●費	●●●
	小計	100,000
支出合計		420,000

本事業の収支に関する特記事項（必要があればご記載ください）

（２）事業執行方針

Ⅰ）寄付金額が目標額を超えた場合の対応方針をご記入ください。

* 寄付募集受付終了、予定期間まで寄付募集し超えた金額の取り扱いについて、具体的な実施方針をご記入ください。

○寄付金額が多く集まった場合は、橋梁の点検箇所を増やします。

また、安全管理器具の充実を図ります。

○50 年前に橋梁の建設に携わった技術者を講師に迎えて、講習会を開催します。

Ⅱ）寄付金額が目標額に達さなかった場合の対応方針をご記入ください。

* 実施時期を延期、規模縮小、他財源の獲得などについて具体的な実施方針をご記入ください。

○調査するエリアを縮小して、調査日数を減らします。

○経費削減に努めますが、不足金額に自己資金をあて予定の事業はできるだけ進めます。